

ICT教育支援を目的とした セルフ型機器レンタルサービスの導入による 運用最適化とサービスレベル向上

Optimizing Operations and Enhancing Service Levels
through the Introduction of a Self-Service Equipment Rental System
for ICT Education Support

2025年12月3日

日本女子大学

管理部 システム課/メディアセンター

高島 咲帆

1. 日本女子大学 メディアセンターの役割
2. 機器レンタルサービスの従来運用
3. 機器レンタルサービスの新運用
4. 機器レンタルサービスの導入効果
5. まとめ

1. 日本女子大学 メディアセンターの役割

- 日本女子大学 メディアセンターは、情報環境を整備・運用し、教育・研究・学習の支援を行う中核組織
- メディアセンターの業務としては、以下の3つに大別できる。
 - ①ICT機器・設備管理 : 教室・コンピュータ演習室設置機器管理
 - ②教学・学修システム運用 : manaba、JASMINE-Navi (UNIPA)、Microsoft365 等
 - ③各種申請・窓口相談 : 機器貸出、プリンタポイント申請 等

①ICT機器・設備管理



②教学・学修システム運用




学習管理システム (LMS)


学生ポータルシステム


オフィスツール

③各種申請・窓口相談

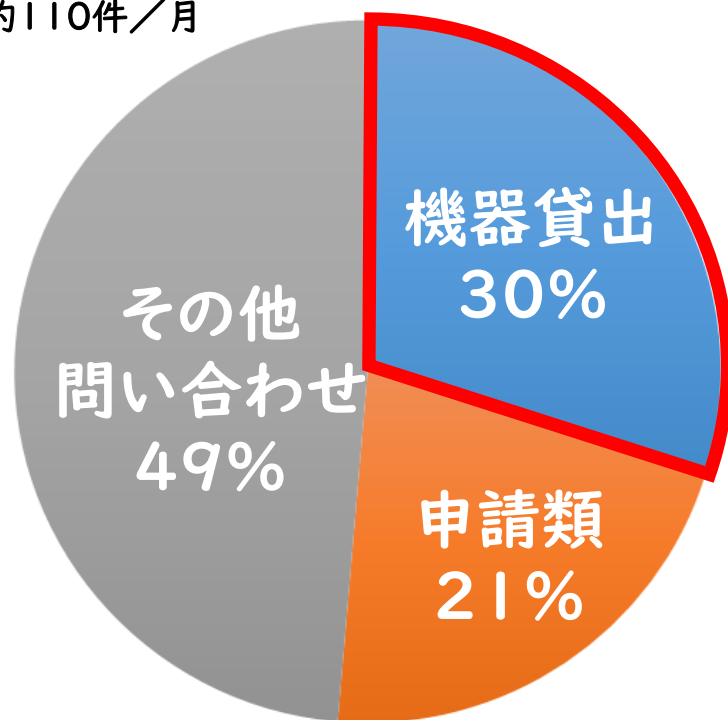
Wi-Fiに接続できません。
manabaにもログインできません。。。
PCも貸してほしいです。



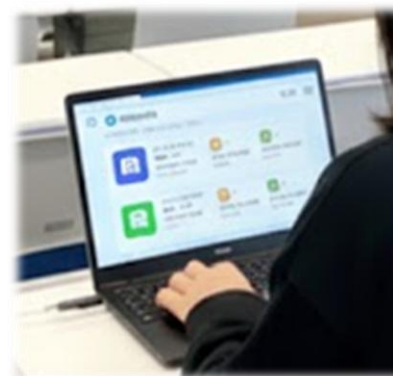
I. 日本女子大学 メディアセンターの役割

- 学生対象とした窓口対応件数の内訳として、約3割がICT機器貸出の相談
- 学生の要望に応じ、機器レンタルサービスを提供

対応件数:約370件／月
機器貸出件数:約110件／月



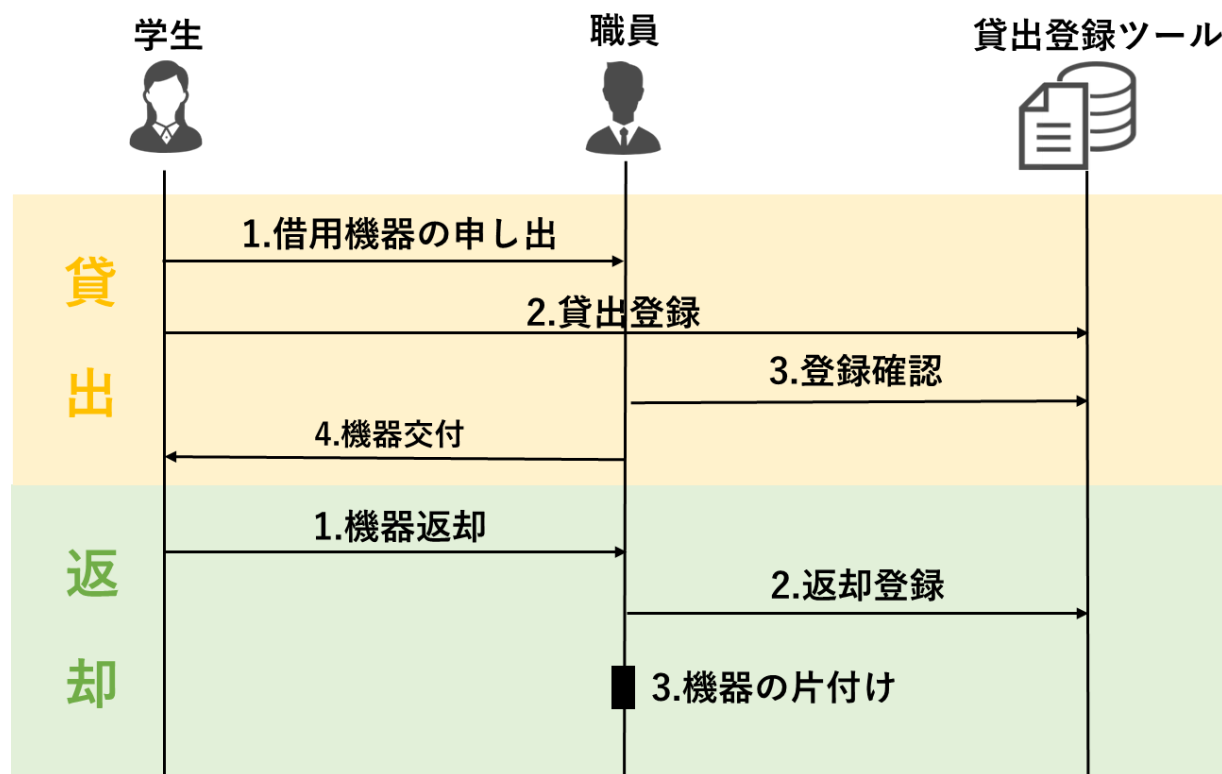
メディアセンター窓口対応



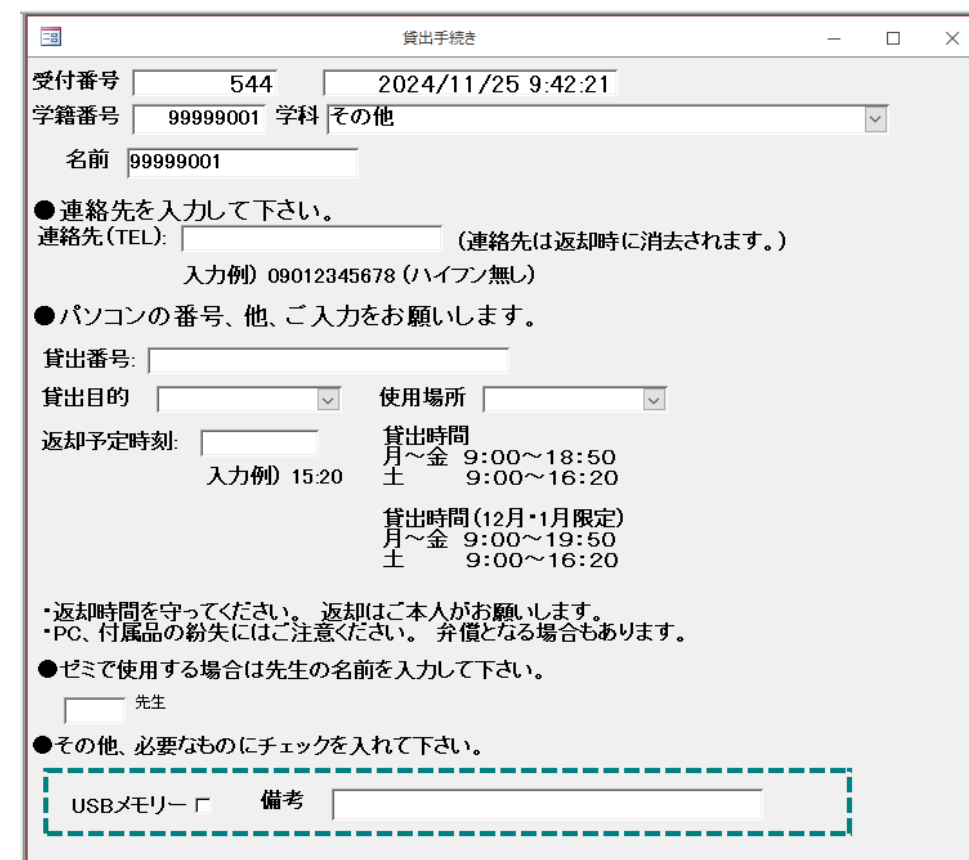
機器レンタルサービスの物品例

2. 機器レンタルサービスの従来運用（概要）

- 職員立ち会いで、学生のICT機器の貸出・返却手続きをAccessにて実施
- 学生は、連絡先や借用機器など情報の手入力が必要



従来の機器レンタルサービスのフロー



The screenshot shows the '貸出登録ツール' (Lending Registration Tool) interface. It includes fields for:

- 受付番号 (Reception Number): 544
- 学籍番号 (Student ID): 99999001
- 学科 (Department): その他 (Others)
- 名前 (Name): 99999001
- 連絡先 (TEL): 09012345678 (Input example: 09012345678 (Hyphen not included))
- 貸出番号 (Lending Number): [Blank]
- 貸出目的 (Lending Purpose): [Blank]
- 使用場所 (Usage Location): [Blank]
- 返却予定時刻 (Return Scheduled Time): 15:20 (Input example: 15:20)
- 貸出時間 (Lending Time): 月～金 9:00～18:50, 土 9:00～16:20
- 貸出時間 (12月・1月限定) (Lending Time (Limited to December/January)): 月～金 9:00～19:50, 土 9:00～16:20
- 先生 (Teacher): [Blank]
- 備考 (Remarks): USBメモリー

Additional instructions and notes are provided at the bottom of the form.

貸出登録ツール

2. 機器レンタルサービスの従来運用（課題）

【課題①】データ不備

学生が貸出登録ツールへ手入力により、誤入力や未保存が発生
⇒返却登録時の整合性確認、未返却学生への連絡が滞るなどの支障

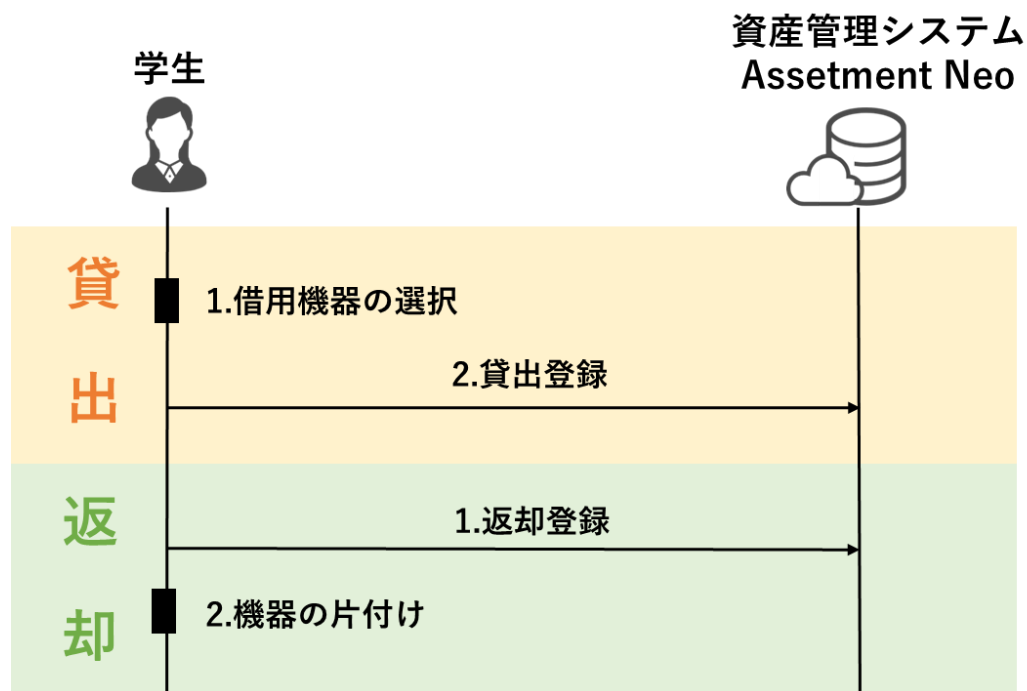
【課題②】対人負荷

- ・職員の立ち合いが必須
- ・借用機器の貸出から返却までの全7ステップに平均5分／件
⇒他の問合せに来た学生は対応を受けられず、待機状態が発生

「職員業務の効率性」「学生サービスの利便性」に影響

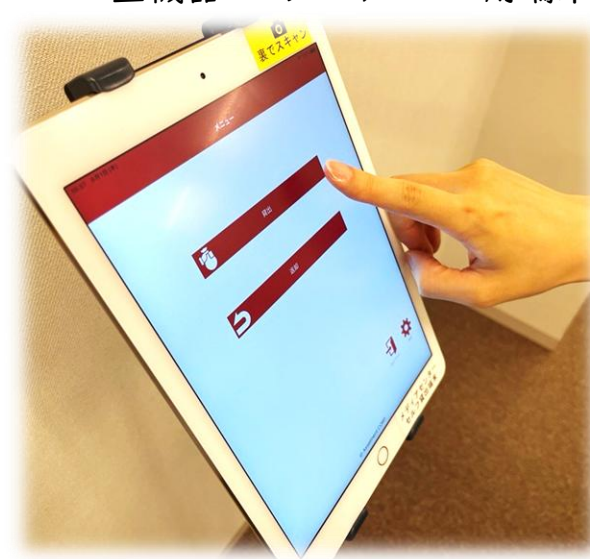
3. 機器レンタルサービスの新運用（概要）

- 従来運用の課題解決のため、機器レンタルサービスを学生によるセルフ型運用に変更
- セルフ型運用に際し、クラウド型資産管理システム (Assetment Neo)を導入
- タブレット端末に学生証バーコードと機器のQRコードの読取のみで手続きが完了



新運用の機器レンタルサービスのフロー

セルフ型機器レンタルサービス用端末



学生証バーコード



機器のQRコード



セルフ型機器レンタルサービス機材

4. 機器レンタルサービスの導入効果（運用最適化）

- セルフ型機器レンタルサービスに変更により、職員の運用工数を年間約373時間の削減
- 一方で、クラウド型資産管理システムの新規導入による運用工数が増える課題が発生
- 上記課題に対し、クラウド型資産管理システムのユーザー情報を、学園基幹システムとユーザー情報管理システムにより自動連携し、運用工数もゼロ化

Campus Plan

- 学生証のバーコード番号
- 卒業・除籍日



Active Directory

- 氏名
- 学籍番号
- メールアドレス



自動連携

AssetmentNeo

ユーザー情報



資産情報



貸出履歴



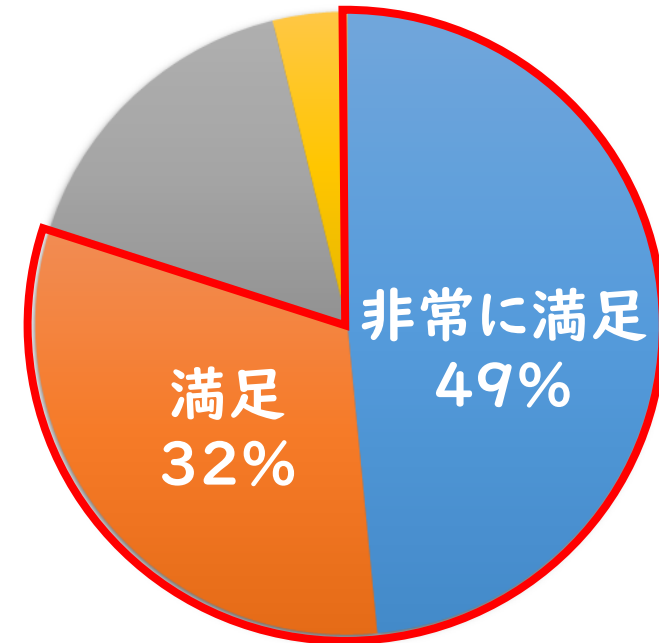
4. 機器レンタルサービスの導入効果（サービスレベル向上）



- セルフ型機器レンタルサービス導入後のサービス利用件数は、前年比の約5.4倍
- また、セルフ型機器レンタルサービスの利用学生へのアンケート調査では、約8割が満足と回答



セルフ貸出サービスの利用件数（月平均）



セルフ型機器レンタルサービスの満足度*

*利用状況で「ほぼ毎日」または「週に数回程度」と回答した学生を対象。

■ 学生からのサービス評価

肯定的評価

要点	代表コメント（抜粋）
手続きの即時性・手軽さ	「学生証があればすぐに簡単に借りられる」 「誰とも話さずに借りられるのが良い」
学修継続の下支え	「PCを忘れたときに助かった」 「修理中も課題ができて助かった」

否定的評価

要点	代表コメント（抜粋）
場所・時間の可用性	「貸出拠点まで行かないと借りられない」 「返却時間が早い（5限で使えない）」
初回導線・認知	「存在も利用方法も知らなかった」 「借り方が分からない」

新運用による課題解決

【課題】手入力によるデータ不備/職員立ち会いによる業務負荷・学生サービスへの影響
→ クラウド型資産管理システム (Assetment Neo) を導入
タブレット端末に 学生証バーコードと機器のQRコードの読取で完結する セルフ型へ

導入効果

- ・貸出件数が 前年比約5.4倍
- ・サービス満足度が高頻度利用学生の 8割が高評価
- ・ユーザー情報の自動連携を実現し、運用工数を年間約373時間の削減

今後の展望

- ・運用条件の見直しによる 可用性の向上
- ・サービスを必要とする学生が 迷わず・すぐに使える環境を強化